

学習指導案 (国語科)

担当指導教諭
教育実習生

- 1 対象 第2学年B組 39名
- 2 日時 平成30年6月14日(木曜日) 第5校時 (13:20~14:10)
- 3 場所 2-B 教室
- 4 単元名 物語(一)『伊勢物語』より「関守」

5 単元について

(1) 単元の目標

- ・和歌を中心に登場人物の心情を読み取る。
- ・作品成立当時の生活(恋愛事情)を知る。
- ・過去の助動詞「けり」、接続助詞「ば」順接確定条件、接続助詞「ど」逆接確定条件、願望の終助詞「なむ」について理解を深め、文法事項に則した現代語訳を行う。

(2) 教材観

『伊勢物語』は日本最古の歌物語である。「関守」はひじょうに短い物語であり、丁寧に読み進めて物語をより深く理解する必要がある。本章段は、二段落構成である。女のもとへ足しげく通う男が女の家の主人の妨害にあい、女に会えず、和歌を詠む。歌を聞いた女の思い悩んだ様子を見て、主人が許すといった第一段落、女が二条の後であり世間の噂にならないよう兄たちが見張らせたといった第二段落に分けられる。

「誰が」「なぜ」などといった情報が省略されている箇所が多くあるため、本文からそれらを読み取る力をつけることが期待できる。

(3) 生徒観

2年B組は真面目な生徒の多いクラスである。自主的な発言はそう多くはないが、読解問題や文法事項などを指名して問えば答える。『伊勢物語』に関しては「芥川」「東下り」「梓弓」を学習済みであり、特に「芥川」から男(在原業平)と女(二条の後)の関係性は理解している。

(4) 指導観

グループワークを行い、自らの意見を発表し、他者の意見を聞く姿勢を身につけさせる。

なぜ主人は人を据えて見張らせたのか、中心となる歌はどのような解釈ができるか、女はなぜ思い悩んだのか、あるじは何を許したのかなど、一文一文を生徒自身に考えさせながら、作品の背景にある当時の事情や風習を読み取らせる。

男がどのような要素を歌にこめたのかを生徒に考えさせることによって、より深く歌を鑑賞できるようにする。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
自分の考え方や経験などをもとに登場人物の気持ちを想像しようとしている。	登場人物の行動や、その行動に至るまでの心情を読み取ることができる。	自分の意見を持って発し、他者の意見を聞くことができる。	助動詞や敬語などの文法事項や語句の意味を理解し、本文を文法事項に則して現代語訳することができる。

7 単元の指導計画(全四時)

第一時：プリント①1行目～3行目の精読(場面設定を理解する)

第二時：プリント①4行目～7行目の精読(和歌が詠まれるに至った経緯を理解する)

第三時：グループワーク、和歌の鑑賞(男が和歌を通じて何を伝えようとしているのかを読み取る)

第四時：プリント②の精読、「関守」全体のまとめ

8 本時案(第三時)

(1) 本時の目標

- ・男が和歌を通じて何を伝えようとしているのかを読み取る。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点、方法
導入 5分	<p>【前回のおさらい】</p> <p>○男が女のもとに通っていたことを知った「あるじ」はどうしたか。 →通り道に毎夜人を置いて見張らせた。</p> <p>○男は女に会うことができたか。 →会うことができなかった。</p> <p>○女に会えなかった男はどうしたか。 →歌を詠み、女のもとへ届けさせた。</p>	<p>○発問を行いながら話の流れを整理する。</p> <p>○前回の内容を思い出せるよう、適宜プリントのメモなどを見るよう促す。</p>	○前回までの内容を理解できているか。
展開 42分		<p>○プリント②を配布する。</p> <p>※登場人物の気持ちをより深く考えるため、和歌を空欄にした旨を伝える。</p> <p>○プリント②下段を見るよう指示し、男から見た状況と女から見た状況を整理する。女に会うことができず帰った後、男が自分の家で歌を詠み、女のもとへ届けさせた歌である。</p> <p>それらをふまえ、男は女にどのようなことを伝えたくて和歌を詠んだのか考えさせる。</p>	
(5)	<p>★ワーク：男はどのような歌を詠んだのだろうか。男と女の現状をふまえ、男の気持ちになって、どのような要素を盛り込むか考えてみよう。</p> <p>①自分の考えをプリント②下段右に書く。</p>	<p>・教科書を見ないよう注意する。</p> <p>・ポイント：男は女に対してどのようなことを伝えたいのか。</p> <p>・机間巡視を行う。</p> <p>・①の間にグループを決めておく。</p>	<p>・自分なりに答えを考えようとしているか。</p>
(7)	<p>②グループで共有し、話し合う。</p> <p>時間が来たらグループでまとめた意見をひとつ黒板に書く。</p>	<p>・机を動かし、グループにさせる。</p> <p>・意見を発表し合い、他者の意見をプリント②下段左にメモさせる。</p> <p>・あらかじめ決めた時間になるまでに各グループからひとつずつ、自分たちの考えたものを板書するよう指示しておく。他のグループと意見がかぶってもかまわない。</p>	<p>・話し合いに積極的に参加しているか。</p> <p>・他者の意見を聞くことができているか。</p>

(4)		<p>・読み上げて確認し、大まかに分類・整理していく。</p> <p>(会いたい気持ち、会えなかった理由など)</p>	
	<p>【和歌の理解】</p> <p>○「人知れぬわが通ひ路の関守は宵々ごとにうちも寝ななむ」</p> <p><発問></p> <p>・「わが通ひ路」とは何か。 →女に会うために通っていた築地の崩れた所。</p> <p>・「関守」とは何か。 →築地の崩れた所に置かれた見張り。見張りがあるから会うことができない。</p> <p>・「関守は宵々ごとにうちも寝ななむ」 →関守に毎夜毎夜少しでも寝て「ほしい」</p> <p>・なぜ寝てほしいのか。 →関守が寝ると、通り道を見張られずに済むので女に会うことができるから。(=会いたいと思っているから邪魔者である関守には寝てほしい)</p>	<p>○グループを解体し、机ごと前を向かせる。</p> <p>○和歌を板書する。</p> <p>○歌意を解説し、三つの要素を取り上げる</p> <p>・グループワークで挙げられた要素のうち、どれが使われているか照らし合わせながら解説を行う。</p> <p><解説></p> <p>・「人知れぬわが通ひ路の関守は」 …ひそかに女のもとへ通っていたこと、そのことを知られてしまい見張りを置かれたことといった歌の前の物語の内容が簡潔に描写されている。(元々この歌から膨らませてきたのがこの「関守」という章段。)</p> <p>・「関守は宵々ごとに」…①会えない理由(毎晩見張りがあること)を女に訴えている。</p> <p>・①を板書する。プリントの空いているところにメモするよう指示する。</p> <p>・グループごとに書かれた意見の中に、①の要素が入っているものがあるか確認する</p> <p>・②会いたいと思う気持ちを板書する。</p> <p>・グループごとに書かれた意見の中に、②の要素が入っているものがあるか確認する</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・関守が寝ないと男はどうなるか。 →通り道を見張られたままなので、関守が置かれているかぎりもう女に会えない。 ・実際、主人から命令されている関守は寝るか。 →寝ないだろう。 ・ということは今後男は女に会うことができるか、できないか。 →できないだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「うちも寝ななむ」 …少しの間だけでもいいから寝てほしい、それほど女に<u>会いたい</u>という切実な思い。「なむ」は「～してほしい」の意。関守が寝てくれないと自分ではどうしようもない(=③<u>もう会えないかもしれない</u>)ということを伝えている。 ・③を板書する。 ・グループごとに書かれた意見の中に、③の要素が入っているものがあるか確認する 	
<p>○自分が女と同じ状況で和歌を贈られたとしたらどう思うか想像してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容が①だけの歌なら？ →会えなかった理由だけ言われる →言い訳にしか聞こえない。見張りを置かれて簡単に諦めてしまうなら、別に会いたいと思ってきているわけではないのか。 ・内容が②だけの歌なら？ →会いたいならなぜ来なかったのか。来てほしい。 →その理由が書かれていないので薄っぺらく感じてしまう。 ・内容が③だけの歌なら？ →会いたいという気持ちも会えない理由も書かれておらず、「もう会えないかもしれない」という事実だけ突きつけられても困惑することしかできない。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★男が伝えたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ①女に会えなかった理由 ②女に会いたいという思い ③もう会えないかもしれないという可能性の示唆 <p>どれかひとつだけ、の歌ではだめ。</p> </div>	

	<ul style="list-style-type: none"> ★逢瀬の予定を突然反故にされて不安や怒りを抱えているだろう女に贈る歌は、①②③のうちどれが欠けてもいけない。 ★これだけの要素が盛り込まれて、たった三十一文字。三十一文字で自分の伝えたいことを三つも詰め込んでしまう男の歌作りの上手さに感心させる。 ・歌意を板書し、プリント上段に写させる。 	
<p>○歌を贈られた女側の反応</p> <p>「と詠めりければ、いといたう心病みけり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が心病んだのか。 →女 ・なぜ心病んだのか。 →もう会えないかもしれないから(関守は寝ないだろうから) ・会えないのは誰のせい。なぜ男と女は引き裂かれるのか。 →女はいずれ天皇の後となる高貴な身分だから。 <p>○あるじ許してけり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あるじ」とはどのような人物だったか。 →屋敷の主人、五条の後。 ・何を許したのか。 →男が女のもとへ通うこと。 ・なぜ許したのか。 →女がひどく心を痛めた様子を見たから。 	<ul style="list-style-type: none"> ★女の苦しみに気づかせる。 ・身分差はどうしようもないことだが、女が「自分のせいだ」「男も私のせいで悩むだろう、それも苦しい」「私(がこのような身分)でなければ引き裂かれることもなかったのに」と考えてしまうだろう。だからこそ女は病んだのだと解説する。 ・「誰が」「何をすることを」許したのかがポイントであると伝える。 ・五条の後も同じような思いを抱いたことがあったのかもしれない、と生徒自身に想像させる。 	
<p>まとめ 3分</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時のふりかえり ○次回の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ○次回は和歌及び残りの本文(「と詠めりければ」以降)の文法的解釈を行うことを告知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の内容を理解できているか。

伊勢物語「関守」②

人知れぬ わが通ひ路の 関守は

宵にぞとに うちも寝なむ

(歌意)

こっそりと人目を忍んで通う私の恋路で、
見張りをして居る番人は、毎晩毎晩
ちよっとの間でも寝てほしい。

と詠めりければ、いといたう心病みけり。

あるじ許してけり。

◎男が伝えたいこと

- ① 女に伝えなかった理由 (人知れぬ…関守は)
- ② 会いたいという気持ち (宵にぞとに…寝なむ)
- ③ もう伝えないかもしれないという可能性の示唆 (〃)

★男と女の状況

男： 女に会いに行つたが、見張りがいたので会うことができずに帰った。

女： 屋敷で男を待っていたが、男は何の連絡もないまま来なかった。築地の崩れに見張りを置かれたことは知らない。

★男はどのような歌を詠んだのだろうか。

男の気持ちになつて、どのような要素を盛り込むか考えてみよう。

【自分の意見】

・ せに会いたい
・ 伝えたいことへの謝罪
・ 家に入れない理由の説明
・ 許してほしい
など (自由に書く)

【ほかの人の意見】

グループ内での
他者の意見や
話し合つて作ったものを
書く。